

悔し涙も流した。震えるほどの喜びも味わった。すべてを明日へのチカラに変えて、名古屋から全国へ世界へ、飛躍しようとしているジュニアアスリート達。
まさにいま青春ど真ん中。彼ら彼女らのスポーツにける熱き思いをお届けします。

学校がある。 受験の準備もある。 でも、いま弓道が楽しい!

しんや れいか
新矢 怜加さん

(弓道・名古屋弓道協会西少年団及び中村弓道会所属 高校2年生)

プロフィール

- 平成30年4月、名古屋弓道協会西少年団及び中村弓道会入会
- 平成30年、令和元年、令和3年、西少年団納射大会優勝
- 令和元年5月、7月、9月、中村弓道会月例会にて選手権獲得
- 令和元年7月、初段取得(中学2年生)
- 令和2年8月、二段取得(中学3年生)



——弓道を始めたきっかけは何だったのですか?

両親ともに弓道をやっていますから、子どもの頃からすごく身近でした。普段の会話に弓道の話が出たり、自然な感じで弓道に入りました。ちゃんと習い始めたのは中学1年ですが、小学生の時に型の練習をしてイメージづくりはしていました。

——弓道の面白さはどんなところだと思いますか?

日本の伝統として良いな、ということはもちろんありますが、弓道会で引いている時に、小学生やおじいさんなど、幅広い年齢層の方たちとたくさん交流できるのは大きな魅力だと感じています。いい刺激になっていますね。

——では、難しいな、と感じるところは?

弓を引く動作には流れがあり、ひとつでも間違えると、矢の方向が全然違ってきてしまって、難しいなと思います。

——いまの課題、普段気をつけていることはありますか?

手の内……弓を握る方の手のことですが、握り方の改善が課題です。ここがしっかりしていないときれいに引けないですから。指導を受けている浅野先生にもよく指摘されている点です。普段は、浅野先生に教えていただいたことを素直に実践する、ということ大切にしています。明確にご指導いただけるので、身体にたたき込むつもりで、できるまでとことん取り組んでいます。

——自分のいいところはどんなところだと思いますか?

忍耐力がある……くらいかな(笑)。

——お父様から見て、怜加さんのいいところは?

(父・浩一さん) よく努力をしていますね。中学1年生から始めて2年生で初段を取りました。ぼくも中学1年生から始めましたが、初段を取ったのは3年生。もう父親を超えています(笑)。課題をあげると、引いた後に残心というのがあるんですが、その辺の部分で感情が出ている。そういうのを直していくといいかな。

——弓道を始めてうれしかったこと、悔しかったことは?

自分の道具を買ってもらった時がすごくうれしくて。特に弓を



買ってもらった時は、実は二段を取った時よりうれしかったです(笑)。悔しかったことは、審査に落ちた時や試合で負けた時も悔しいんですが、浅野先生に教えていただいたことができなかったり、同じ失敗を繰り返してしまった時は、自分自身すごく悔しい気持ちになります。

——リフレッシュの方法はありますか?

高校に弓道部はありませんから、弓は土日引いています。学校生活のリフレッシュに弓道があるという感じです。気分転換になるというか、いいリズムで生活できていると思います。

——いま弓道が楽しいんだ。

すごく楽しいです!

——では最後に、こういう人になりたいとか、目指すところはあるですか?

弓をきれいに引いて、矢をちゃんと中てるのはもちろんですが、引いている時に私はよく焦ってしまって、何やっているかわからなくなってしまうことがあります。最後まで考えて引く……冷静に引ける人になりたいです。目標は、近い未来なら三段に合格したい。ちょっと遠い未来なら、競技者として国体に出てみたいです。

——お父様はいかがですか?

(父・浩一さん) ぼくも妻も、大阪で国体の選手でした。できれば、ぜひ、国体選手になってほしいな、と期待しています。

——それは楽しみです。

私たちも大いに期待しています。本日はありがとうございました。

